

公益法人 第13期

2023（令和5）年度

事業計画書

2023年4月1日から

2024年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

《事業計画 基本方針》

- ・ [公益事業1] 学校、企業と協力してベルマーク運動を継続する
- ・ [公益事業2] へき地校・病院内学校・被災校等への支援に努める
- ・ [財団運営] コロナ禍の大きな影響の中、新たな事業展開を目指す。また、経費削減を念頭にした安定運営と、運動参加団体の利便性を高める改革に引き続き取り組む

《総説》

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業2は、公益事業1にともなって発生する財団への寄付を原資にして、生徒数が少なくマーク集めが困難であるへき地校、災害被災校、病院内学級等に財団が教材を寄付します。ベルマークは事業2を実施するために、事業1の仕組みとともに1960年に始まりました。

事業1、事業2の継続が財団の使命です。コロナ禍で受けた影響が2023年度も続く見込みの中、新たな方針を立て、かつ安定経営のために財務体質強化に努めます。

《現況》

前提となる現況は以下のとおりです

参加団体（学校等） 26,026 団体(前年比 98.9% 2023 年 1 月末現在)

協賛会社（市場調査費提供会社） 46 社(2023 年 1 月現在)

協力会社（教材販売および寄付） 13 社(2023 年 1 月現在)

財団職員数 常勤 22 人(2023 年 1 月現在)

以上を前提に、2023 年度の基本方針は以下のようになります。

参加団体が1年間に集める点数 3億点／年度

参加団体が購入する教材費 3億円／年度

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助する支払い寄付金 3790 万円／年度

財団経常費用予算 5億 8810 万円

《公益事業1》

- ・ 目標とする集票点数 3億点／年度
対前年度予算比 100.0% ±0万点
対前年度実績（予測）比 100.0% ±0万点
参加団体（学校等）によるベルマーク集めの総計を上記のように設定します。
2022年度は前年度予算比+3000万点と見積もりましたが、参加団体のコロナ禍での工夫した取り組みが軌道に乗り、送られてくる点数は予算通りの見込みです。2023年度は、さらに集票が戻ることを期待しますが、引き続きコロナ禍の影響が残るほか、また協賛会社1社（牛乳石鹸）が2023年度中に脱退することから、前年度並みの目標としました。
- ・ 参加団体数の想定
参加団体（学校、公民館、図書館等）数については、学校の合併等の自然減が続いていますが、広報活動による新たな加入もあり、概ね前年度並みを目標にします。
- ・ 参加団体のお買いもの額の想定
約3億円／年度（2022年度予算比107.1% +2000万円）
お買いもの額の10%に相当する額が、協力会社（教材販売会社）から、財団の支援事業（公益事業2）の原資として寄付されます。2022年度は、商品の供給（半導体不足など）が一部進まない状況も続きましたが、財団から積極的に買いものを促すキャンペーンを展開したこともあり前年度比105%の見込みです。2023年度も引き続きお買い物を積極的に促しながら前年並みを目標とします。
- ・ 協賛会社数
2023年度4月1日時点での予定社数 46社（詳細は報告6）
- ・ 協力会社数
2023年度4月1日時点での予定社数 13社（詳細は報告6）
- ・ 新規企業への訪問と勧誘
引き続き、ベルマークにふさわしい企業に協賛会社に入ってもらえるよう勧誘活動を継続していきます。
- ・ ベルマーク運動説明会
ベルマーク運動説明会は、学校の新学年にともなってPTAを担う新役員に向けて、ベルマークの集め方と使い方を説明するものです。今年も全国各地多くの会場で、参加団体の方々に安心して参加いただける対応は難しく、さらに運営する財団職員の感染リスクも高いと判断しました。参加団体へは丁寧なお知らせを実施し、昨年同様に財団活動の取り組み方や、具体例を説明する動画をホームページ上にアップして誘導を強化します。（報告5に詳細）

- ・ 刊行物
ベルマーク活動報告書
2017年度からベルマーク財団の活動を分かりやすく紹介した「活動報告書」を作成しています。ベルマークの「活動の現状」を網羅しており、協賛・協力会社にも好評です。対外PRなど積極的に活用していきます。
- ・ ベルマーク新聞
2018年度からデジタル化を実施しています。HP上で毎月発行しています。各参加団体の取り組みや、協賛・協力会社からのお知らせ、ボランティアなど最新の動向を取材して掲載しています。
- ・ 財団ホームページ
支援先の学校から、子どもたちの元気な写真が送られてくるたびに、ホームページで紹介しています。コロナ禍が長く続く中、参加団体に必要な情報をできるだけ迅速に発信しています。また、協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、各企業情報なども積極的に掲載しています。
- ・ 学校外での集票(寄贈マークの拡大)
企業や自治体、個人から、財団に直接届くベルマーク（寄贈マーク）は到着件数ベースでコロナ禍でも前年度を大きく上回っています。財団へ直接マークを寄贈できることを広くPRをしたことも功を奏していると考えています。
- ・ ベルマーク大使の活用
2015年12月に任命した7人の大使に加え、2018年に新たに6組9人に大使にご就任頂き、現在16名。地域での運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれです。それぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にお力添えいただきます。

《公益事業2》

昨年度は予算を復活させ、今年度も同額の予算とします（2023年度 3790万円 前年度比100% ±0万円）

- ・ へき地校援助費
ベルマーク運動の原点ですが、学校数は減らさずに、金額を前年同額で援助することにします（100校に合計1460万円）。
一輪車や理科実験等の教室事業については200万円。依然、コロナ禍の影響で、実施できない学校があると想定されるためです。
あわせて総額1660万円を計上します。
- ・ 特別支援学校等援助、海外支援団体向け援助（友愛援助）
盲・ろう・養護学校・病院内学級、海外日本人学校、海外支援団体向け援助（友愛援助）への援助は前年度比100%。あわせて総額1080万円を計上します。

- ・ 東北被災校支援
財団予算から 750 万円を用意します。東日本大震災から 10 年以上経過したことを踏まえつつも、ウェブベルマーク協会からの支援や寄贈マークなどを充当して支援を継続したいと思います。（詳細は報告 3）
- ・ 緊急災害援助
突発的な災害被害については財団予算から 300 万円を計上します。こちらも寄贈マークや友愛援助などによって、実質の支援金額は変動します
- ・ ジブラルタ生命から寄付申し出
例年へき地校向けの教室事業の充実に 100 万円の申し出を受けており、予算に見込みを算入します。
- ・ ミズノ財団からの寄付
毎年 100 万円をいただいております、走り方教室等の費用に算入を見込みます。

《財団運営》

- ・ システム改修
マークの仕分け・集票作業の簡素化など